2012/12/16? 初版　作成　　OB30 期　笹倉
201X/XX/XX 改定　作成　　期　〇〇

小屋利用マニュアル（冬季用）

部内用

１．鍵

五八木荘で借りるのが基本になっていますが、スペアーがトイレ脇の倉庫の小窓を開けるとストラップで掛かっています。

２．電灯

（太陽発電（DC12V）→バッテリー蓄電（DC12V）→インバーター（AC100V に昇圧）→LED 電灯（AC100V）
①階段脇の元スイッチを ON にする。②各電灯脇のスイッチを ON にすると電灯がつきます。数泊する場合は BT 充電が不足する場合がありますので常時つける電気は 2 灯（居間）＋台所程度にして、その他はこまめに切ってください。また、居間の電気は LED（節電）とシャンデリアが選択できますが、消費電流の少ない LED をなるべく使ってください。小屋の電灯は 7 箇所（居間 2＋台所 1＋倉庫 1＋トイレ 1＋2F 南＋2F 北）です。すべて LED 電灯です。インバータの最大能力は瞬間 100W ぐらいで、LED 電灯は 1 灯あたり 8W 程度です（白熱電球の 60W 相当の明るさ）。常時 20W 程度の使用に抑えてください。

＊階段にある 2 箇所のコンセントは上記インバーターからの 1W 程度の常夜灯用です。バッテリー蓄電残量のゆとりがあるときには携帯充電に臨時に使ってもかまいませんが、それ以上の大きな容量のものはバッテリーがあがってしまいますので、使わないでください。（大きな容量の電気を要する場合は、３．の発電機の電源を使ってください））

注意 1：小屋を空ける時、寝るとき、帰るときは①元スイッチを OFF にしてください。（①を OFF にしないと電灯を消してもインバーターが生きていますので、電気を大量に消費続けます。）
注意 2:電灯を同時に多くつけるとインバーターが落ちて、真っ暗になる事があります（特に BT の能力が落ちる冬季の低温時）そのときは、電灯の点灯を減らして①元スイッチを OFF→ON にしてインバーターを再起動ください。
注意 3：バッテリー室は倉庫北側の棚にありメインバッテリー（自動車用 3 台）＋予備バッテリー（専用型 2 台）があります。メインバッテリの残量が少なくなったら、予備に切替えてください。切替 SW はバッテリー脇の壁にあります帰るときには、切替 SW をメインに戻してください。（太陽発電はメインバッテリーを優先にチャージし、メインが充電されたら、予備バッテリをチャージする仕組みになっています。）

３．電気配線（コンセント）＊発電機

ガソリン発電機は 750W です。玄関外で排気口を外に向けて回し、コードを小屋玄関外にある給電プラグにつないでください。これで、（階段にある 2 箇所のバッテリーコンセントを除く）各コンセントに AC100V が給電されます。コンセントは居間の東側柱、台所柱、2F 廊下（階段脇）、2F 南西居室、東側雨戸外（屋外コンセント）の 5 箇所です。

注意 1：負荷が小さいと電圧が上がりすぎる事があります。負荷の大きい掃除機やハロゲン投光機（500W）

などを必ずつないで電圧を安定させてください。白熱電球 1 個や 2 個のみでは電圧が上がりすぎて球が短時間で飛びます。また発電機の電源は綺麗でなくノイズの関係で、ハンディ電灯は必ず白熱電球とし、蛍光電球や LED は壊れますので絶対につながないでください。
注意 2:発電機の燃料はレギュラーガソリン（赤い金属管）です。ガソリンは灯油と異なり内圧があり揮発性も高いので、キャップ等は完全に閉めてください。注入時はエンジンを冷まし、周囲火気のない場所で（ガソリンは-40 度でも引火する危険物です）。

４．暖房

４－１　コタツと豆炭

器具 1 台につき、5～6 個程度を豆炭袋から火箸を使って加熱容器に出し、軽く火にかけて起こします。炎が出てきて半分ぐらい赤くなったら器具に移し、コタツの器具入れに入れます。（重要）器具の開閉レバーは開にすると加熱しすぎるので危険？。全閉にしておく事。全閉にして火を弱めておけば 12 時間以上は持ちます。

なお、火が弱くなる直前（概ね 10 時間ぐらい）に炭をそのまま足せば改めて起こす必要はなく新しい炭に自然に着火します。

（炭を足す手順）
(1)器具が加熱しているので台所のコンロの上で器具のふたをあけ、火箸を使って炭の灰になったを部分を落とす
(2)まだ赤く焼けている炭の部分は加熱容器に一旦移す
(3)灰だけたまった器具を閉めて、小屋の外の安全なところで開けて灰を捨てる（残火注意）
(4)加熱容器に移した残り火の炭を器具に戻す
(5)新しい生の炭を一緒に入れる（総量で 5～6 個程度になるように）
(6)器具をコタツに戻す（レバーは閉）
(7)数時間のうちに生の炭に自然に火がつく

概ね 10 時間おきに(1)～(7) を繰り返す。

・コタツで寝るのは快適であるが、中に顔をもぐらせないこと（一酸化炭素中毒）
・コタツのテーブルの下には破れてもよいような古い敷布団を敷く。これがないと床から熱が逃げるので、いくらコタツをしても暖かくならない。

４－２　灯油ストーブ

倉庫の灯油容器からポンプでストーブに給油する。ストーブは直接入れる方式のストーブとカートリッジ式の 2 通りがある。（注意）灯油容器とガソリン容器は間違えない事。ガソリンをストーブにいれると火事になる。古い灯油から順に使用する事（1 年以上経った古い灯油はストーブの芯を傷めるので古いものから消費する）
ストーブは芯をあげて円筒の部分の手前をすこし持ち上げて、ライター等で着火する。火がついたら円筒部分を左右に振って下に隙間がないようにする（隙間があると空気が入って黒鉛がでてしまう）。数分後火

が上がってきたら火炎が上がらない程度に芯の出し方を調整する（火炎が出ると煤が出てストーブが真っ黒になる）
火力が強いので、やかんは沸騰してきたら、ストーブの上から降ろすか少しずらして調整する（沸騰したままだと水が蒸発して空焚きになる）。
就寝前はストーブは必ず消して寝る事。

５．ガスコンロ

省略

６．布団

冬は特に未明は室温寒いので注意。背中から冷えるので冬季は 2 重に敷布団＋毛布＋体＋毛布＋かけ布団＋毛布にすると快適。ただし冬季 10 名以上の宿泊では潤沢に布団が使えなくなるのでシュラフを間に入れるか、コタツで寝るか工夫する（コタツが暖かい状態では、布団 1 枚で快適に寝れます）。

７．トイレ

男性（小）は外で。

８．その他

太陽パネルは冬季はあげないでください。落雪で破損するため。

９．食器類

帰る日にはお湯で煮沸して拭いてください。

１０．小屋を出るとき

確認事項：ガスコンロの元栓閉、台所換気口の閉め、豆炭火の始末（残火、加熱注意）、ストーブの消火、１F と２F の雨戸閉、電灯の元 SW オフ、こたつの片付け（敷いたままだと湿気にやられる）、鍵を戻す。